

令和二年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

「救急車は無料なのか」

宇陀市立榛原中学校 三年 稲葉柚月

今年の夏休み、私は乗馬のレッスン中に落馬し、救急車で病院へ運ばれました。馬に乗った後、馬の装備の点検中に馬が暴走し地面へ振り落とされました。落ちる時に私は肩から背中にかけてフェンスに激突しました。とても痛くて、立ち上がることが出来ず、そのまま救急車で病院へ搬送されました。病院ではレントゲン撮影やCTスキャンをして、医師に診察をしてもらいました。その結果、骨や内臓には損傷は見られないとのことで、傷口に手当てをして、姿勢を保つコルセットと痛み止めの薬を処方していただきました。

家に帰って私は母に「今日って結構お金かかった。」と聞きました。すると母は明細書を見ながら「八千九百五十円。」と答えました。私は思ったより安くて「えっ。安くない。」と言うと、母は「ほんまは二万九千八百四十円かかっているけど、保険証あるから三割で済むねん。」と教えてくれました。中学生の私にも保険証があり、病院で当たり前のように出していた保険証によって支払うお金が三割で済むということを知って驚きました。私は病院でもらった明細書を上から順に確認してみました。再診料、画像診断、投薬、創傷処置などたくさんの項目とその点数が書かれています。でも、私はふと疑問に思い

「お母さん、これ救急車代は無いの。」

と尋ねました。母は「日本は救急車呼ぶのに、お金かからなかったと思う。」

と言いました。ケガをしてしばらく家で安静にすることになった私は救急車について調べることにしました。調べると救急車が一回出動するのに約四万五千円の費用がかかっていることが分かりました。救急車の出動は、地方自治体の行政サービスの一つであり、その費用には税金が使われているのです。そして今回支払ったのは三割で八千九百五十円だけど、残りの七割分は税金だということも分かりました。私達が納めた税金はとても身近なところで使われています。もし救急車が有料だったら、もし医療費が全額自己負担だったら、そう考えると私は怖くなりました。社会保障という言葉をよく聞きますが、社会保障という大きな枠組みの中に、私達が安心して生活していくために必要なこと、医療や年金、介護、福祉といった大切なことがぎゅっと詰まっているのです。

私が乗った救急車の三人の救急救命士さん、コロナで大変な時に本当にありがとうございました。そして医療費や救急車の出動費用を補ってくれている社会保障制度にも感謝です。消費税十パーセントに腹を立てていましたが、税金があつて良かったと心からそう思います。これからは、税金を払っているみんなのためにケガをしないよう気を付けたいと思います。